

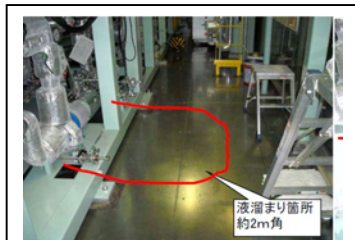
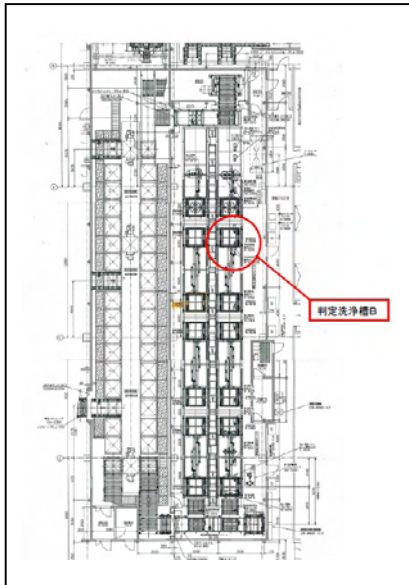
平成 22 年 4 月に発生したトラブル事象（ 1 / 1 ）

	区分
件名	真空超音波洗浄エリアにおける洗浄カゴからの液だれ
発生日時	平成 22 年 4 月 13 日(火) 17 時 55 分頃
発生場所	処理棟 1 階 真空超音波洗浄エリア（管理区域レベル 3）
環境への影響	なし
PCB 汚染の可能性	人への影響なし
概要（時刻は頃） （応急措置等）	<p>17：55 運転会社作業員が、作業スペースから真空超音波洗浄エリア内の判定洗浄槽 B 下部の床面に液だまりを発見。中央制御室へ連絡後、エリア内に入り、漏れ部位及び漏れ範囲の確認を行った。</p> <p>漏れ範囲：約 2 m 四方。但し、漏れ部位は特定できず。</p> <p>17：58 真空超音波洗浄 B ラインを停止。（18：07 A ライン停止）</p> <p>18：11～20：09 たまり液の回収作業を実施。</p> <p>吸収マット使用数：約 6 枚（軽く拭き取りで）漏れ量は約 1 と推定。</p> <p>18：54 たまり液のサンプリング実施。PCB 濃度：1.59mg/kg</p>
事象による影響	4/13 18：07～4/19 16：00 真空超音波洗浄を停止（停止中に原因の確認作業に係る真空超音波洗浄槽の運転は実施）。
発生原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フランジ等のボルトの緩みやバルブの異常などを点検したが、漏れの原因となるものはなかった。確認運転でも漏洩が無かったことから、配管からの漏洩ではない。また、第 5 槽から判定洗浄槽の間にはオイルパンが設置されており、洗浄カゴの移動中の液だれによるものでもない。</li> <li>・ 事象発生時、液は判定洗浄槽 B の真空配管槽出側フランジ部付近が濡れていることから、この液は上から落ちてきたものと判断。</li> <li>・ 小型コンデンサ缶体を洗浄する場合、真空超音波洗浄槽の第 1 槽～第 5 槽は洗浄カゴを吊り上げる前に必ず排液を行っており、これまで第 1 槽～第 5 槽で洗浄液が槽外に漏れる事象は発生していない。一方、判定洗浄槽における小型コンデンサ缶体の洗浄の場合、2 カゴ洗浄後にサンプリングを実施しているため、1 カゴ目は洗浄液が入った状態から吊り上げることとなる。</li> <li>・ 以上から、判定洗浄槽 B に洗浄液が入った状態で洗浄カゴを取り出した際に、洗浄カゴ内の小型コンデンサ缶体内に洗浄液が滞留したまま吊り上げられ、缶体内の洗浄液が下方に落下せず槽外に漏れたものと推定。</li> </ul>
再発防止対策	<p>小型コンデンサ缶体が入っている洗浄カゴを判定洗浄槽から取り出す場合、小型コンデンサ缶体が洗浄液をすくい取らないようにするため、洗浄カゴを取り出す前に判定洗浄槽内の洗浄液を排出するよう運転条件を変更した。</p> <p>排液時に洗浄液が小型コンデンサ缶体内に滞留しないようにするため、缶体の缶底に対角線上に 2 箇所穴を開けるよう作業手順を変更した。</p> <p>排液をスムーズにするため、1 カゴに投入する小型コンデンサの缶体数をこれまでの最大 10 個から最大 8 個とするよう運転条件を変更した。</p>
水平展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 真空超音波洗浄 A 系統でも、同様の対策を講じる。</li> </ul>
連絡・公表の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事象区分の判断：区分 の 1 「（1 週間未満の）設備の停止を伴わずに修復できた PCB 等法令で定める有害な物質の施設内での漏洩」に該当。</li> <li>・ 対外連絡：18：20～ 室蘭市消防本部、北海道及び室蘭市に電話連絡。</li> <li>・ 立入調査：19：00～19：05 室蘭市消防隊による状況調査。19：15～20：10 室蘭市消防本部予防課による立入調査。4/14 10：00～12：00 及び 4/19 15：00～16：00 胆振総合振興局及び室蘭市による立入検査（4/19 の立入検査後に真空超音波洗浄設備の通常運転を再開）</li> <li>・ 報告・公表：「通報連絡・公表の取扱い」に基づく報告として、5/10 に報告書を北海道及び室蘭市に提出し、PCB 処理情報センターに配備した。</li> </ul>

件名

真空超音波洗浄エリアにおける洗浄カゴからの液だれ

図・写真



漏洩発見箇所の状況



洗浄カゴ内の小型コンデンサ缶体（対策前）

① 槽内の排液後の状況：  
液は見えない

② 液きり状況：液だれは少量

③ 液きり状況：部分的な液の跡

④ 槽と槽の間のカバー：  
移動中の液だれは2滴ほど

⑤ かが移動後の槽内状況：  
底に残液がのこる程度

小型コンデンサ缶体の洗浄状況（対策後）

